

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(80)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(80)—

1. 始めに

前報(79)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。今回も Crystal E に 10000F の電解コンデンサーを連結しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も交響曲です。

MELODIA C 01699-700

モーツアルト 交響曲第 39 番 E-Flat Major

交響曲第 32 番 G Major

ルドルフ・バルシャイ指揮モスクワ室内オーケストラ

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

MELODIA レーベルのオリジナル盤ということで、TELDEC、逆相、第 4 時定数 Mid で聴いていきます。

made in USSR との刻印が盤に打ってあり、旧ソ連時代の盤で、指揮者もオーケストラも馴染みがありません。

盤質はよくありませんが、演奏はオーソドックスで、しっかりした表情を聴かせてくれ、実力のほどを伺わせるものです。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E などの総合的な効果

として、旧ソ連時代の盤ですが、演奏はしっかりしたものであり、その特徴が把握できました。

以上